



## 説教要旨「神様の住まう所」

ルカによる福音書 21 章 5～9 節

コリントの信徒への手紙 I 6 章 14～18 節

イエス様が神殿の境内で弟子たちに教えていると、参拝に来た巡礼者たちが神殿の立派さを賛嘆する声が聞こえてきました。このエルサレム神殿は、ヘロデ大王によって再建され「ヘロデの神殿」とも呼ばれました。城壁の外からも見えるほど巨大で壮麗な神殿は、地中海世界の各地から多くの巡礼者（観光客）を引きつけるようになっていました。この立派な神殿の建物に感心している人々にイエス様は、この神殿が徹底的に破壊され、崩されてしまう日が来る告げたのです。

エルサレム神殿の崩壊はユダヤ人たちにとっては、一つの大きな建物が壊れるというだけのことではありません。それは自分たちの培ってきた伝統、信仰、文化、生活全体の崩壊であり、もっと言えば国の崩壊、滅亡でもあります。ユダヤ人たちにとってそれは神の敗北であり、この世の終わりを意味するような事柄でした。神殿が崩れ去ることを告げられて動揺し「それはいつ起こるのですか」と切実に問いかける人々に、イエス様は、あなたがたが絶対に滅びようがないと思こんでいるものが崩れ去ったとしても、それは「世の終わり」ではなく、その先がある。だから惑わされないように歩みなさいと告げるのです。

古来より神殿とは、神様が住まわれる場所だとされてきました。けれども神殿は、どんなに立派に見えても人間が建てた建造物に過ぎません。神様は建物に住んでおられるのではなく、わたしたち人間が、『生ける神の神殿』なのです。けれども、それは1人1人の人間に神様が住んでおられるということではありません。わたしたち人間が集まって、礼拝を守り、祈りを合わせる。そのわたしたちの間に、神様は住んでおられるのです。

今も戦争は止まず、次から次に大災害が起こっています。しかし、どんなに苦しくても、どんなに厳しくともこの世界は終わらないのです。だから、神様の愛に信頼して、厳しいこの世を歩みなさい。イエス様はわたしたちにそう語りかけてくださっています。

(2023・1・29 説教者：稲垣真実)

